

南浦和中だより



第5号

平成29年8月29日(火)

さいたま市立南浦和中学校

さいたま市南区辻6-1-33

Tel. 048-863-0753

さわやか相談室 直通

Tel. 048-837-5909

《学校教育目標》日に新た 心豊かに たくましく

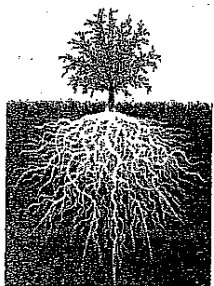
「根っこの部分が大事！」

校長 益子 慶次

夏休みも終わり、いよいよ2学期が始まりました。長い休みの間、生徒たちは様々な経験をし、見聞も広がったことと思います。その経験等が2学期からのいろいろな意味で自分を高めることに役立ち、自信となって、一人ひとりの表情や行動に表れてくることを期待しています。

さて、第99回全国高校野球選手権大会、いわゆる夏の甲子園で、本県代表花咲徳栄高校が県勢初の優勝、悲願の深紅の大優勝旗を獲得しました。「いつも通り」の平常心で、「いつも通り」の力を出し切りました。感動をありがとうございました。ピッチャーを中心とした堅実な守備と爆発力をもった打線、チーム一丸となる全員野球で、素晴らしい快挙を成し遂げました。「魔物がすむ」と言われる甲子園。3年連続5回目の出場となる花咲徳栄も前回、前々回はともに優勝校に惜敗、苦しみました。試合後主将がナインの気持ちを代弁し、「先輩の悔しい思いがあるから今の僕たちがいる」「敗戦を知るから日々の猛練習に耐えられた」「先輩や仲間の絆があるからピンチでも動じなかった」と、言っています。また、打のヒーローは「監督には野球以外の日常生活、根っこの部分が大事だと教えてもらった。人間的に成長することができた。」と言っていました。その監督もあるとき、校長に校内に咲く花の名を尋ねられて、答えられず、校長から、「何も知らないあなたに教わる生徒は不幸ね」と諭されたそうです。野球指導者である前に、教師として人として、豊富な引き出しと度量の大きさが求められていると気付いたということです。

何年前になるのですが、『置かれた場所で咲きなさい』（渡辺和子著）が、話題になりました。渡辺さんが36歳のときに、思わぬかたちで大学学長に任命され、悩んでいたとき、一人の宣教師が短い英語の詩を渡してくれたそうです。その冒頭が「置かれたところで咲きなさい」という言葉だったということです。その本の中で、結婚しても、就職しても、子育てをしても、「こんなはずじゃなかった」と思うことが、次から次に出てきます。そんなときにも、その状況の中で「咲く努力をしてほしい」。しかし、どうしても咲けないときの考え方として、「雨風が強いとき、日照り続きで咲けない日、そんなときには無理に咲かなくてもいい。その代わりに、根を下へ下へと降ろして、根を張るのです。次に咲く花が、より大きく、美しいものとするために、つらい日々も、笑える日につながっているのです。」という話を思い出しました。



2学期には、体育祭、合唱コンクールという大きな行事があります。新人体育大会もあります。どんな事前準備をし、考え方をもって生活し、取り組んでいくのでしょうか。特に3年生は、中学校生活最後となる様々な行事に取り組みながら、進路決定に向けて勉強もしなければなりません。思うように結果が出ないとき、勉強や練習から逃げ出したくなるときもあるでしょう。まさに、根を下へ下へ降ろして、根を張るときです。より大きく美しいものにするための準備をするときです。保護者の皆様も子どもの成長に一喜一憂せず、褒めることを中心に見守ってあげてください。